

# Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 74



R3.12.17

今月のキーワード

小中の指導をつなぐ

12月13日(月)、東京家政大学の太田洋教授を迎え、石橋中学校にて小・中学校英語研修を開催しました。授業では、子どもたちが生き生きと授業へ向かう姿を参観することができ、小学校の学びが中学校に確実に引き継がれていることを実感することができました。また、授業研究会では中学校区ごとに協議を行い、改めて小中一貫の視点から指導方法をつなぐことの大切さについて確認することができました。

## 研究授業(1年生)より



1年生担任稲垣和希先生とALTのマイムナ先生に研究授業を提供していただきました。本時のねらいは「友達を遊びに誘うために電話で予定を立てよう」(話すこと[やり取り]・知識及び技能)で、自分たちで考えた電話のやり取りをペアで練習したり発表したりしました。

### <授業の流れ>

- ① 現在進行形の復習(ジェスチャーゲーム) →
- ② 本時のめあて(友達を遊びに誘うために、電話で予定を立てよう) →
- ③ ペアで電話を想定したやり取りをする(活動1)・発表 →
- ④ 理由などを追加して再度会話のやり取りをする(活動2)・発表 →
- ⑤ 振り返り

#### ① ジェスチャーゲームの場面



#### ③ 活動1の場面



#### ④ 発表の場面



#### ④ 活動2の場面



#### ワークシート

- A: Hello. This is ( ).  
B: What are you doing?  
A: I'm ( ). What's up?  
B: Are you free ( )?  
A: Yes, I'm free.  
B: Let's ( ).  
(理由などを付け足す).  
A: Sure. I'm looking forward to it.  
B: Thanks. See you then.  
A: Bye.

ペアを替えて合計10回程度の対話を行ったことで、活動2では、ワークシートから目を離して友達とやり取りができるようになりました。細かなステップを踏むことで、分かりやすく、子どもの活動量が豊富な授業になりました。



## 授業研究会より



授業研究会で話題となったことをもとに、Q&Aでお伝えします。

Q:「知識・技能」を評価するためには、どのような活動を設定すること（見取りも含めて）が大切でしょうか。



<太田先生より> A:「知識・技能」を評価するポイントは「ある場面を与えたときに、言語材料や表現が正しく使えているか（現在進行形を使って話さない、などの指示は与えないこと）です。そして「正しく」とはa/the/複数形のsなどがきちんと間違えずに使えるかどうかを確かめることではないということです。小学校で「間違いを恐れず、話してみよう」としていたものが、中学校で「間違いをしないで話そう」となることで、子どもは混乱してしまいます（小中の学びをつなぐことの大切さ）。今日の授業の中では、稲垣先生が「意味が通じればいいよ、ワークシートを見ないで話そう」という言葉がとても効果的でした。



Q:本時は「知識・技能」を評価する授業でしたが「思考・判断・表現」を評価する授業にするには、どうしたらよいでしょうか。



<太田先生より> A:「思考・判断・表現」を見取る授業にするためには、例えば「楽しい週末にするために土日の計画を立てよう」といった目的を明確にし、そのために自分は何をしたいのか（目的を達成させるための内容を考える）、どのような英語を使って伝えるのか、目的、場面、状況を設定することが必要になります。暗記しなくてはいけない!と子どもが思った時点で「思考・判断・表現」を見取る授業ではなくなってしまうことに留意しましょう。



※他にも、太田先生から「中間の振り返り」場面の効果的な活用方法についてアドバイスをいただきました。

- 子どもたちが、うまくできなかったことなどを共有すること
  - 良い例を共有すること
  - 時間を多くかけないこと（日本語が多くなってしまったため）
- など、具体的な中間の振り返りのポイントとしてアドバイスをいただきました。是非今後の授業に役立ててください。

